

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

特集1

続 対等ってなんだろう？

パート1 落語の世界をのぞいてみたら

パート2 江戸の歴史をひもといてみたら

特集2

ものさしいろいろ

～気になる絵本をのぞいてみると～

行ってみました

緊急サポート・ピッコロ

(NPO法人 子育てネットワーク・ピッコロ)

22

男女共同参画センター“ひらく”最近の動き

センター便り・No.6

「男女共同参画推進に関する条例」の検討がはじまりました。

第Ⅶ期小平市男女共同参画推進協議会は、5人の市民公募委員を含めて10人の委員(女性6人、男性4人)で、昨年10月に発足しました。同協議会は今、「男女共同参画推進に関する条例」についての協議を重ねています。

協議会で話し合われている「男女共同参画推進に関する条例」は、女だからというだけで男だからというだけで望まない扱いを受けたり、夢や希望をかなえる機会が与えられなかったりすることのない、「だれもが自分らしく生き生きと暮らせるまち」をつくるための指針となるものです。家庭でも職場でも、地域でも学校でも、男女が力を合わせて努めなければ解決しない悩みや問題が増えています。どう役割と責任を分担しあえばいいのかを考えるときの指針にもなるものです。

協議会では、条例の必要性、条例に求められる基本的な考え方、条例に盛り込むべき内容などが検討され、市への「提言」がまとめられることになっています。(協議会は市民に公開されていますので小平市民ならだれでも傍聴できますし、協議の内容は市のホームページでも知ることができます。)

「くるみんマーク」をご存知ですか？

次世代育成支援対策推進法に基づき、子育て支援企業の認定マークです。

この法律は、少子化対策の一環として、次代の社会を担う子どもが健康かに生まれ、育成される社会の形成を目的とし、平成15年7月に公布され、事業主は従業員の子育て支援のための行動計画を策定・実施することが定められました。そして、その結果が一定の要件を満たす場合に厚生労働大臣の認定を受けることができ、この「くるみんマーク」を商品等に使用することができます。

「くるみん」の愛称は、子どもが優しく「くるまれている」、企業(会社)「ぐるみ」で仕事と子育ての両立支援に取り組むことなどの考えから、応募作品の中から選ばれました。厚生労働省によれば平成19年9月末現在、全国で366社が認定されています。



常設子育て広場 きららはうす訪問記 鈴木町2-175 (光ヶ丘ふれあいスペース)



きららはうすの看板

あったかい場所

“きらら はうす”は、運営する特定非営利活動法人子育て広場「きらら」代表の野村さんもスタッフも設立当初から念願だったハウスだ。理由は2つある。第1の理由は子どもと向き合うのがつらいと思った時にすぐ利用できる場所であること。第2はスタッフの居場所であること。

事務所機能もあるが、スタッフが空き時間に立ち寄り仲間同士の話ができる。そういうあったかい場所だ。

“きらら はうす”は花小金井駅に近く、小平商工会が商店街の空き店舗を利用して作った光ヶ丘ふれあいスペースにある。「何ですか」ときららを知らないお母さんたちが入ってきて、その度にきららのことを説明すると、「こういう場所が欲しかった」と言う人や、まるで自宅のように気軽に利用している人もいます。 “きらら はうす”の左隣は魚屋さん、右隣は商工会のチャレンジショップ、向かいは多目的スペース(イベント会場や展示会場に使用可)になっている。光ヶ丘商店街の人たちも応援していて、和菓子の玉川屋さん(商店会会長)は、「若いお母さんたちがいっぱいでしょ。」と顔をほころばせる。

ホームページに「きららの保育は子どもと親をはなすための保育ではありません。」とある。会員登録をしておくと、お母

さんが「ほっと一息つきたい」と思ったときにいつでも利用できる。子どもと一緒に時間を過ごしてもいいし、一時預かりを頼んでもいい。野村さんは言う。「子どもと親を距離的に一旦離すことで、精神的な親子の距離をより縮められるような質の高い保育を提供しています。“きらら はうす”では、広場も一時預かりも、どちらも気軽に利用できることでより親子の距離を縮めるお手伝いができると思っています。」

子育てに正解はない。子育ての結果は大人になるまで分からないのだから。助けてもらいたいときには助けてもらい、立ち止まりながら自分なり(自分たちなり)のやり方でするしかないと思う。“きらら はうす”は子育てをするときのご近所であり強い味方だ。

●子育て広場「きらら」のホームページ：
<http://homepage3.nifty.com/k-kirara/>

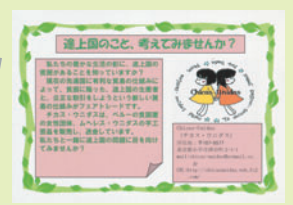
※商工会主催で「商店街をあげて子育てを見守る」という主旨のもとに開催された第1回の「こたいらサミット」から3年を経て“きらら はうす”開設が実現した。“きらら はうす”の立ち上げ資金の一部には赤い羽根共同募金・NHK歳末たすけあい義援金からの配分金が使われている。



節分のイベント：新聞紙を丸めた豆をまく

9ページ「いきいきレディ⑩」 つづき

チカス・ウニダス(スペイン語とともに歩む女の子たち)は活動の様子をホームページで公開している。「途上国のこと、考えてみませんか？」のカードを作り、普及活動もしている。



ひらく

第22号 平成20年3月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課
☎042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌『ひらく』部会

小川 俊明 北川 紘二 笹 和紀

笹尾かをる 佐野 里美 鈴木さよ子

谷原 裕子 朝長 孝子